

身近な地域でふれあい・支え合いの場づくり

〈居場所の効果〉

仲間づくり、生きがいづくり

孤立、閉じこもりの防止

身近なボランティア活動

災害時にいかされます

地域の福祉力を高めます

■ふれあい・いきいきサロン事業

社会福祉協議会では、地域のさまざまな団体と協働しながら、身近な地域における「居場所づくり」を推進してきました。その中でも「ふれあい・いきいきサロン事業」は、多くの地域で温かい交流の場を生み出しています。

近所の会館などに集まり、お茶を飲みながら語り合ったり、体操したりする、そんな何気ない時間が人と人とのつながりを深め、心の健康や介護予防にもつながっています。参加者同士が「元気にしよる？」と声をかけ合う姿は、自然な見守りの輪になっています。今後は、このサロン活動を「ふれあい・支え合いの場づくり」としてさらに発展させ、誰もが気軽に参加できる身近な居場所としての機能を高めていきます。

高齢者だけでなく、子育て世代や障がいのある方、地域の若者など、世代や立場を超えて交流できる“多世代のつながり”をキーワードに、地域に住む誰もが「顔見知り」となり、支え合える関係を築くことが、これからの地域福祉の基盤となります。



■世代間交流支援事業

「みんながオルデ通町」は、丸亀市通町の空き店舗を活用して開設されました。ここでは、こどもから高齢者、障がいのある方など、全ての人が気軽に集える居場所として、地域の多様な人々が交流できる居場所づくりを進めています。

運営は、商店街や自治会、ボランティア団体、音楽活動団体など、居場所を定期的に利用する団体が協力し、みんなで相談しながら行っています。

こうした取組により、地域のつながりを生み出す交流の場となり、世代や立場を超えたふれあいや支え合いのしくみが育まれています。



■コミュニティサロン～相談機能付カフェの取組～

近年、地域のさまざまな世代や立場の人が、気軽に集える居場所づくりが進められています。高齢者や子ども、子育て世代、障がいのある方など、誰もが参加できる交流の場は、地域のつながりを生む大切な機会となっています。

地域住民が気軽に集い、交流や情報交換ができるコミュニティセンターにカフェを設け、相談機能をあわせもつ包括的な居場所として整備を進めています。身近な場所で相談ができる環境を整えることで、日常の困りごとや不安に早期に対応し、地域全体で見守りと支え合いの輪を広げています。

ある地域では、関係団体が一人暮らしの高齢者に声をかけてカフェを開き、孤立感の軽減や見守り活動のきっかけとなっています。声をかけること自体が地域の温かいつながりの一歩となり、カフェに参加できなかった方からも「行くことは叶わなかったけど、声をかけてもらって嬉しかった。」という声が寄せられています。

また、地域の関係者や住民が意見を出し合い、運営に参加する形でスタートした交流の場もあります。子どもが遊べるスペースや体操教室後の休憩の場を用意するなど、参加者のニーズに応じた柔軟な活動が展開され、地域住民から親しまれる居場所へと育ち、地域の活気づくりにもつながっています。

このように、地域の身近な場所に交流と相談の両機能を備えた居場所を広げていくことは、孤立の予防や支え合いのしくみづくりにつながり、地域の福祉力を高めるきっかけとなっています。

